

マルセイニュース 8月号

発行日 2016/8/23

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL.0146-22-5123

昭和40年頃？港まつり大パレード(堺町パセオに行く通り)



昭和38年港まつり大パレード(日高信用金庫前 国道)



今も昔も、みんなの「浦河港まつり」



第54回。今年の浦河港まつりは、日本ハムファイターズマイルキャラバンとのコラボ開催でした。港まつりの大パレードがあった頃の写真もご紹介。多くの人の協力で、時代に併せて変化しながら今日まで開催され続けているお祭りです。



【写真・情報提供】小野寺千穂デザイン事務所 小野寺千穂さんのFBページ他より許可を得て掲載

浦小6年生が「浦小商店」を出店！

浦河港まつり。浦河小学校6年生の総合学習『浦河町。をプロデュース』プロジェクトで3回ほどデザイン授業をお手伝いさせてもらって、いよいよデザインした特産品が「浦小商店」でお披露目されました。

クラス全員が一人一人デザインしたパッケージ、小学生たちが地元の特産品について一生懸命調べて考えて、商品名やキャッチコピーもみんな考えて、どういう表現にするかも話し合っ、魅力をきちんと表現していたことにたく感動しました。自分が子どもの頃の、のびのび楽しく描いていた絵を大人にあれこれ言われて直すのがすごく嫌だったので、基本的な考え方を教えた以外は自由に作ってもらったらそれぞれの個性が出てすてきな仕上がりになったと思います。接客もすごく上手にできてた。300点ほどの商品が2時間で完売したそう。素晴らしい！

2学期からはソープ作りなどに取り組むとのことなので、こちらも楽しみです。

デザイナー 小野寺千穂

1、夏休み期間中に港まつりで取り組まれた浦小6年生の総合学習。港まつりの大パレードがあった時代は、各小学校の鼓笛隊が参加しました。



自転車で小5の息子と北海道縦断をして マルセイの経営アドバイザーがやって来た！

稚内からスタートした自転車旅行の途中、経営アドバイザーの須田知身さん（群馬県在住）が次男の晃介さんと1200キロ走行して浦河入り。疲れを癒すはずが、滞在中は溪流釣りに海釣り、アポイ登山など日高の夏を満喫し、再び自転車で猛暑の本州へ旅立って行きました。



昨年9月、毎年実施している当社の経営合宿ため浦河に滞在した須田さん。滞在中、早朝の溪流釣りや海釣りも楽しめました。今年は親子での自転車旅行の中継点として浦河に立ち寄り、8月4日～7日の3泊4日滞在し、夏休みを浦河で満喫。11才の晃介くんが、「来年はずっと浦河がいいな」とうれしい感想を残していつてくれました。

「自然の魅力もいっぱい！ 浦河、すごいっしょっしょっしょ！」

昨年同様、ラーメンの『まきご』の大久保さんにガイドをお願いして溪流釣りに行きました。昨年はマックスだけでしたが今年には師匠のキョウちゃんが一緒です。「浦河、すごいっしょっしょ」と、浦河をこよなく愛する大久保さんのガイドによる溪流釣り。今年も楽しかった！まだまだ知らない浦河の魅力を堪能させていただきました。たくさん釣れた魚も、塩焼きや燻製にしていただきました。

休日には釣りや登山を楽しんでいるキョウちゃんのことを知っ

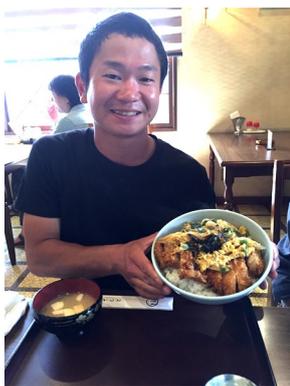
ている須田さんは、一緒にアポイに登るのも楽しみにしていたようです。登山をしている人が、晃介くんが駆け上がったいくのを見て「なにあの子！」と驚くほどの速さで山頂まで駆け上がったそうです。旅先で出会う人の多くが「すごいね」と感嘆の声



を上げるのは小さな体の息子さんの晃介くんだけ。どうもそれが少々不満そうだったお父さんでした。（笑）

いやいや、当社の社長より若いとはいえ、道中いくつもの山に登りながらの自転車の旅なんて、50代の須田さん、すごいです！

こうして自らもチャレンジを続けている経営アドバイザーと社長の今年の経営合宿は来月、今年で14回目です。



ごはんはいつも大盛りです！消費するカロリーもハンパないキョウちゃんの場合は、いくら食べても大丈夫。



若者の力でパワーアップしました！ マルセイの“2016環境整備”

事務所の修繕工事の次は会社の敷地内整備に取り組みました。炎天下、玉の汗を流しながら黙々と力仕事をこなすキョウちゃん。小さめの体ですが、とても力持ちです。無意識にキョウちゃんが閉めたタンクの蓋が、他の人には開けられなかったりすることも度々あります。（笑）

会社敷地内を 整備しました

ばわふるさんからは「食えねえ〜男」と言われたケイスケくんも体重4キロ増！かなり力も付いてきましたよ。極力、自分たちでできることは自分たちで！毎年夏季には集中して取り組んでいるマルセイの環境整備。陣頭指揮を執るのはもちろん「組長」とはわふるさんです！

さて、次に出される指示は何か？





夏季はメンテナンスに取り組んでいます 灯油タンク交換しました！

水は入っていないか、サビてはいないか。灯油タンクは外見だけでなく、内部の状態のチェックも大切です。順次実施している『タンク無料点検』の結果を受けてすぐに、必要なメンテナンスのご依頼をしてくださるお客様が少なくありません。信頼にお応えできるように頑張っています！

暑い中でのタンク交換工事でした。十分な水分補給を心掛けながら、まだ経験の浅いケイスケくんにも優しく指導しながら無事に工事終了！キラキラと玉の汗を流し続けていた兄の仕事を覚えようと、真剣な眼差しで見つめていたケイスケくんも、いつの間にか随分と腕っぷしが太くなってきましたよ♪

まずは撤去するタンク内の灯油を一旦ドラム缶に抜き取る作業から開始です。撤去して改めてよく見ると、交換が必要と指摘したタンクの底部も脚部も、腐食が進んでポロポロでした。安全を確保するために良いタイミングでの交換でした。

ピカピカのタンクになりました！

「よし！今日の交換工事、オレは行かないぞ。」と社長。ということと、この日はひとつひとつ現場経験を積み重ねているキョウちゃんも弟のケイスケくんにも任せました。

「いよいよ交換が必要そうですね。お願いします。」タンク点検の結果報告をご覧になったお客様から、灯油ホームタンク交換のご依頼をいただきました。信頼いたしていただけたいですね。ありがとうございます。



暑い夏も、楽しく仕事しています



ストーブ分解整備も 順調に進行しています！

お盆が終わったら秋風を感じるのが北海道。朝夕肌寒いと感じるようになってきたら、そろそろストーブを使う時期が近いということ。ご予約いただいたストーブの分解整備も順調に進んでいます。

細かい仕事も好きとあって「楽しいです！」と黙々とストーブの分解整備にも取り組んでいたキョウちゃん。社長や経験豊富な先輩業者さんにアドバイスや手ほどきを受けながら経験を積んで技術を磨いています。ガンバ！



家庭の片付け仕事と 産業廃棄物収集運搬

「家庭で不要になったモノの片付けのお手伝いは、大変喜んでいただいている仕事のひとつです。当社の元氣（というより、パワフル？）な女性たちが軽トラックで出かけて、お客様に驚かれることもありましたが、最近は変わりましたが、会社には若者が増えるってすごいことです。うれしいことです！」

「行ってきます！」と元氣に現場に出かける若者たちを見送る50代。ますます笑顔のマルセイです♪





浦河町地域おこし協力隊・辰巳遥さんによる 「ばふん」で町おこし！

「ばふんペーパープロジェクト」進行中



8月6日(土)、「ばふんペーパー」のワークショップ現場をのぞいてきました。会場は新ひだか三石町の『MKRanch』さんです。日高山脈が見事なロケーションと最高のお天気！参加者の方から「ばふんが足りませーん！」なーんて、明るく愉快で楽しいばふんペーパー作りの様子でした。辰巳さんが地道に取り組んできた『ばふんペーパープロジェクト』。とっても可能性を秘めているようです♪



「ばふんペーパー」完成！

「馬で何かできないかな？」したいなあ…。赴任当初から色々な「馬の可能性」を探っていきたくて模索していた辰巳さん。乗馬療育の仲間たちとの会話の中で、「カナダでは馬の紙が売っていたよ」という面白い情報を得て、やってみようと思ったそうです。早速、動物のフンで紙を作っているところを調べると、スリランカに象の糞からつくる「象さんペーパー」というものがあることがわかりました。フンを煮出して不純物を取り除き、取り出した繊維だけをパルプに漉き込んでつくる手すきの紙です。



まずは見よう見まねで始めた馬糞を利用しての紙作り。繊維を取り出すための馬糞の煮だしも最初は1回のみでしたが、できたのはすごい緑色の紙。脱色をして、もっと応用が効く紙にしたいと思いついて研究と施行を重ねた結果、今では3回以上の煮出しを基本工程にしているとか。でも、湿度や馬糞の状態を見ながら煮出しの回数を調整しているそうです。すごいねー！

ワークショップ中、参加者から「ばふんが足りませーん！」と明るい声が聞こえた時には思わず笑ってしまいました。愉快です。辰巳さん、一生懸命考え、コツコツ取り組みを続けて、ついに新しい「馬の可能性」を発掘しましたね♪

ところで興味深かったのが、「ボスの馬糞がいいんだって」という言葉です。「ばふんペーパー」を作る上での馬糞の良さ悪しつてどういうことかな？それは、どうやら混じりっ気がないこと。煮出す回数が少なく済むからです。加えてボスの場合、嘔む回数が多い？消化能力も高い？とにかくボスの糞はいい！抽出する繊維が短くそろっていて美しい。確かにこの日初めて見たボスの馬糞から抽出された繊維は、キラキラと輝いていましたよ。(笑)

それにしても、乗馬療育に携わる小島さんと江刺さんに誰の糞がいいかを相談したときも、最初からボスのを勧めていたとか。「馬糞を見る目」の確かさにも驚かされました。面白いなあ。

「ばふんペーパー」をここまで形作るまでは、辰巳さんもよほど馬糞と親しんできたのでしょう。今では馬糞の状態をチェックできるエキスパートのように、若い女子の自宅なのに、部屋もお風呂も車の中まで、『ばふんペーパープロジェクト』の道具で一杯になっているようですよ、お風呂に入るのも一苦労しているそうです。ご苦労様です。近々の課題として、必要な道具が収納できて、作業も効率よく出来るような場所を探しているそうです。どこかにありませんか？



BPP “馬で様々な人が楽しめる機会”を実現！

昨年、協力隊赴任のあいさつの中で辰巳さんはこんな気持ちを伝えていました。「浦河で発展してきた乗馬療育をはじめ、馬で様々な人が楽しめるような機会を設け、いろいろな馬の可能性を探っていくことができたいと思います。」

「ばふんペーパー」もこんな思いの中から生まれたもの。この日のワークショップ後、「こんなにたくさんの人と一緒に制作したのは初めてのこと。みなさん楽しんでくださって良かった！」と、色々な意味で確かな手応えを感じてうれしそうでした。

もう一つの顔は「コミュニティナース」

8月はもう一つ大切なワークショップを開催。乗馬療育ネットワーク主催の『親子で楽しむユニバーサルデザインツアー』でのプログラムのひとつ。ここでも、『ばふんペーパープロジェクト』は様々な人が楽しむことができますと大きな手応えを感じたようです。その手応えに目を輝かせていた辰巳さん。実は看護師でもあり、他にも「コミュニティナース」という概念を学んでいます。「コミュニティナース」が地域の日常の中で活躍することと、良くなっていくことあるのでは？と、暮らしが健康に結びつくような新たな仕組みをイメージしながら勉強を続けています。まだ聞き慣れない「コミュニティナース」という概念ですが、これから注目され、普及が必要とされていくのでは？と思われました。こちら、今後が楽しみです。

マックス



前略
 マルセイニユース五月号の村岸様の文章を拜読致しあまりにもなつかしい内容でした。私も、戦後昭和三十年頃の当時の浦河町の子供達の遊びと恒例行事などを、懸命に思い出して拙い文章ながら書いてみました。

***昭和二十八年頃から三十四年頃の浦河の子供たちの遊びと恒例行事**

- (1) 魚釣り
 【港付近】ウグイ、アブラコ
 ガヤ、チカ：【堺町】フナすくい
 【絵笛】フナ釣り 【杵臼砂防ダム】 鱒釣り、カジカ刺し
- (2) ガンゼ、ノナ採り 詳細別紙
- (3) 小鳥獲り
 ヒワ、ヤマガラ、ウン、メジロ
- (4) 山ぶどう、コクワ採り
 そして栗拾い
- (5) 山菜採り
 ミツバ、セリ、フキ、山わさび…
- (6) 樹液採り イタヤの木から
 (経験者は少人数)
- (7) グスベリ採り
- (8) 野いちご採りと桑の実採り
- (9) キリギリス獲り
 浜田牧場(常盤町)の辺り
- (10) 野ウサギ採り
 鎌田牧場わきの雑木林
- (11) 磯エビ獲り
- (12) マンサク採り
 福寿草を十二月(師走)に採り 正月に咲かせる

- (13) ビー玉遊び
- (14) パッチ(メンコ)
- (15) 缶蹴り、石蹴り
- (16) ガツパ遊び(ホッキ貝を利用)
- (17) 竹馬遊び
- (18) 竹ツポ、パチンコ遊び…
 *竹ツポ 直径15ミリくらいの竹を長さ20センチくらいに切り、両端の筒の中に水を含んだ紙を入れ、片方より竹箆で強く押すと片方の紙がパンと飛び出してゆく

*パチンコ 山に行つて二股(Yの字)の木枝を採つてきて両端にゴムを取り付け、小石を挟んで飛ばす。カラス、ゴメ等が標的。私の場合、ヘビが苦手でトンネルの入り口のコンクリートの穴にヘビがぶら下がつており、それをやつけに…

(19) ローソク集め

八月七日の七夕頃と思います。近所子供達がカンテラ持つて浴衣を着て、数人で近所の各家をまわりまわす。*ローソク出せ出せ、出さないとカツチャクソ：おまけに食いつくぞ：と唄いながら歩くと、ろうそく数本とお菓子をもらうことが出来ました。

(20) 雑ビン集め(鉄くず集め)

棒の真ん中に竹かごを吊るしものこ担ぎ。東町の砂浜から井寒台までの砂浜を歩き、鉄を拾つてそれを売り、替り玉アメ、ガム、チューブ入りチョコ…の資金とする。甘い思い出です。

取りあえず前記迄とします。各項目には語り尽くせない色々な方々さんの思い出があります。今回は(2)のガンゼ、ノナ採りの詳細を記載いたします。

うれしいお手紙をいただきました。ご家族で話題にさせていただけると嬉しいです^^
昭和の「浦河の子どもたちの遊び」のご紹介！



小学校三年生(昭和三十年)の頃からですか。七月になるとガンゼ採りのことで心ウキウキ。ババちゃん(祖母)に真新しい赤のフンドシを縫つて貰い、近所の悪ガキ仲間と朝八時頃、いざ出陣。背中と右手は目一杯の古い腐りかけた魚箱のゴツパ(木っ端)。左手には採つたガンゼがいたまないようガンゼを海水につけておく手かごと縄。

小学校低学年の頃は体も小さく、波の穏やかな港内中防波堤でガンゼ採りをする事が多かったです。防波堤に着くと早速火を起こします。七月初旬の海水はひどく冷たく入水には一大決心：岸壁に付いているコンブにつかまり、目一杯息を吸い一気に2〜3メートル位のコンブの下に潜ります。岸壁のへりにはガンゼがたくさん！六個くらいを両手と胸を使い海面まで持ち上がり、吊るしている竹かごに入れます。十数回潜ると海水の冷たさで体はマヒ状態：唇は紫色、アゴと体はブルブル震え：丘に上がりひたすら火にあたる。三、四十



ガンゼ(エソバフンウニ)、ノナ(ムラサキウニ) 採りの思い出

食します。昼を過ぎると更に腹が減つてくる。昼食のための常用食の時間帯です。(帰宅するとは無し。) 一番大きなガンゼ又はノナのヘソを押しあげ、中に入っているワタを取り出し内部を海水で洗います。その中に十個位のガンゼの実を入れ火の中へ。十数分で『なべやき』の完成です。そのうまいこと絶品です。(今考えると、ひどく高価なグルメを食していたのだと…) しかし、なべやき数個食へても満腹感はありません。そこで副食、ツマミを採りに海中へ…。ツブ、アサリ、ミル貝(ムール貝?)を採つて、また焼いて食べます。遊びに夢中になつてると、気が付くと空には夕日。帰宅して夕食を済ませると、勉強するヒマもなくひたすら明日のガンゼ採りを夢見て就寝です。

マックス様
 拙い文章、ひどい内容、ただただ悪ガキの思い出話、笑い話でした。
 東京浦河会会長 中井保郎
 昭和二十一年一月生(満七十才)

分経つと胸、腹、足に桜模様
 の斑点が出ます。これは体が温まった証拠です。又、海中へガンゼ採りへ。数回これを繰り返している、ひどく空腹感。そこで先ずは、採つたばかりのガンゼを割つて生で



最近読んだ
本の中より...



『サッカーと愛国』 清義明 著 (株)イースト・プレス 発行

(父) 鉄泰に話を聞いたのは、李忠成が浦和レッズへの移籍のうわさが流れていたときだ。自分(二著者)はレッズのゴール裏の排外主義的な風潮を知っていたため、不安に思いつた。が、鉄泰は濃い緑茶ハイに口をつけて聞き流す。「そんなことは私たちにはいいけれどもあることなのだ。当たり前のこと言うな」とでも言うように。(本文より)

待望していた清義明さんの本です。横浜マリノスのサポーターでもある清さんは、「サッカーは未来への武器」というサイトをインターネット上に持っていて、愛読しています。今まで書籍が無かったのが不思議と思えるライターです。本書は、サッカーという世界でもっとも愛されているスポーツの現場で起きてきた(民族差別と、(民族差別との戦い)についての考察です。

「スタジアムには日本人が知らない世界基準がある」

冒頭の文は、元日本代表の李忠成選手の父親の言葉です。李選手が移籍した年の開幕戦、浦和レッズのサポーターが(ジャパニーズ・オンリー)外国人お断りの横断幕を掲げた事件はまだ記憶に新しいところですが、Jリーグでダントツの動員数を誇るチームが起こしたこの事件の衝撃は大きく、海外でも報道されましたが、Jリーグとレッズは断固たる措置を当該サポーターにお

こない、内外から高く評価されました。著者は自らもレイシズム(民族差別)を許容しない立場ですが、それでも問題を起こしたレッズ・サポーターの面々に突っ込んだ話を聞きに足を運びます。これが、面白いのです。レッズばかりではありません。著者の愛するマリノスは「バナナ事件」を起こしますし、3年前のソウルでの日韓戦では巨大な旭日旗が振られます。

著者は彼らにも会いに行き、なぜそんなことをするのか話を聞きます。日本だけがそういう振る舞いをするわけではありませぬ。同じ試合で韓国側は安重根の肖像を掲げました。著者は、「互いにそれほど悪意は無い。わかっただけ」といふ気持ちがあること、いまも、試合後に現地のサポーターが集まる店に行くと、日本からのサッカーファンは本当に歓迎されると自身の経験として記しています。「浦和レッズ」のことは尊敬しています。間違いないアジア最強のサポーターだと思ふ。これは著者が中国サポーターのリー

ダーから実際に言われた言葉です。レッズのチャントやコールまで歌ってみせたそうです。とは言いながらも、試合になるとときに過剰なまでの愛国心の発場の場となってしまうのがサッカー・スタジアム。ヨーロッパはアジア以上です。

日本サッカーへの心からの敬服

と云って「普段の生活で嫌な思いをしたことは一度も無い」と語っている。彼の率いる杭州绿城は当時最下位で

著者は言います。サッカーはピッチ上に敵と味方を作り出す排外主義的な性格を持つ。それは本来90分間だけのことはずいぶん、ピッチは社会を投影しスポーツのタブーを乗り越える人々が必ず現れるのだ、と。サッカーに限ったことではありません。ほとんどのスポーツがそうです。はたしてスポーツは人々の融和に貢献するのだろうか、それとも分断を促進するのだろうか、と思えます。おそらく両方でしよう。しかし、人々の相互理解にスポーツを通じて貢献したいと取り組んでいる人たちが数多くいることも事実です。その一人を本書から紹介して終わりとします。

岡田武史は、日本人だから

あつた。さぞや不満があるかと思えばサポーターの反応はまったく違っていた。「岡田監督を尊敬している。彼はチームを変えた。これからも応援し続けていく。日本人だから」といって、特別な感情はまったくない。「結局は満足とはほど遠い成績しか得られなかつた岡田は、翌年辞任することになったが、中国のサッカーファンからは「これからも日本のサッカーに学ばべきだ」と、その労をねぎらう声ばかりだったという。広東の地元紙は「岡田氏は日本サッカーに対する心からの敬服を我々から勝ち取った」と評価した。

(本文より一部抄訳)

社長



「浦河はいいねえ・・・」と 港でキャンバスを広げていた人は 伏木田光夫先生でした!



8月の暑い日、思いがけない出会いに恵まれました。港で絵を描いている人を見かけ、伏木田先生によく似た人だなあ：と思つたら当のご本人でした。翌日開催の風景画教室のために浦河へ。明日は、僕は描けないからね」と雲ひとつない炎天下、黙々と絵筆を走らせていらつしました。その様子を見守っていたのは奥様の恭子さんでした。先生を思いやり、

マックス

予定外でしたが思わず車を運転して浦河まで来たそうです。先生が夢中で絵を描いている間、恭子さんを「ルピナスの丘へ」案内しました。ご存じなかった浦河の風景に出会って大変喜んで下さいました。良かった。80歳を過ぎてもお元気なお二人と、久しぶりにお会いしてお話ができ、とても楽しいひとときでした。

歩くといひことありますね^^ 赤防に釣りに行く途中での素敵なサプライズでした。お二人とも、お元気で!



ガスでおいしくクッキング

「冷やしうどん」で楽しいランチ

おいしいうどんをたくさん送っていただきました。そこで今回は冷たいうどんのアラカルト(^_^)夏の暑い日のランチタイムに3種類の冷やしうどんをおいしくいただきましたよ～。用意する材料に「うどん」を記入しませんが、冷やしうどん3種ですよ～！



●ささみの梅和え (2人前)

梅干し 3個(梅肉のみで30gほど)
鶏ささみ 2本(中くらい)100g
青ネギ 適量
大葉 3～4枚



* 生姜(みじん切り) 小さじ1.5
* 醤油・砂糖 各小さじ半分
* ゴマ油 小さじ1
◎めんつゆ(2倍濃縮) 100ml
◎冷水 200ml



- 1、ささみは蒸し煮をして粗熱を取り、手で裂く。
- 2、*の調味料を混ぜ合わせ、小口ネギを刻んだものと叩いた梅干しを加え、よく混ぜ合わせる。
- 3、冷たいうどんにささみと2のをせ、千切りにした大葉をのせる。
- 4、◎の合わせつゆを回しかけて完成！(白ごまトッピングOK)

●なすと揚げ玉のピリ辛 (2人前)

Aめんつゆ(2倍濃縮)・冷水 各100cc
なす 250g
Bめんつゆ(2倍濃縮)・みりん 各大さじ1
B豆板醤 小さじ1/4
ごま油 適量
青ネギ(小口切り) 適量
揚げ玉 適量



- 1、なすは縦4等分→8ミリくらいの厚さで銀杏切り。
- 2、フライパンにごま油を入れてなすを炒める。
- 3、なすが柔らかくなってきたら火を弱め材料Bを加える。
- 4、中火にしてなすがしんなりするまで炒めたら、火を消し皿に取り出し、粗熱が取れたら冷蔵庫で冷やします。
- 5、揚げ玉をフライパンで乾煎りしてカリッとさせます。
- 6、器に冷たいうどんを盛り、なす、揚げ玉、青ネギとのせてAのめんつゆをかけて完成！



やった～！オール★★★★！



●ピリ辛豚しゃぶのせ(2人前)

豚ロースしゃぶしゃぶ用 100g
長ネギ (1～2本)50g
* 豆板醤・砂糖 各小さじ1/2
* 酢 小さじ2
* ごま油 小さじ1
* にんにく(すりおろし) 小さじ1/4～1/2
◎めんつゆ(2倍濃縮)・みりん 100ml
◎冷水 200ml



- 1、長ネギは斜め薄切りに、豚肉は熱湯でゆでて水にとり、キッチンペーパーで水分を取る。
- 2、ポウルに豚肉と長ネギを入れ*の合わせ調味料でピリ辛に味付けする。
- 3、◎を合わせてめんつゆを作る。
- 4、器にうどんを盛り3のつゆをかけ、2のをせて出来上がり



試食した人	今日の料理は★いくつ？(最高★3個)
社長	文句なし！うまいっ！
(株)ユートライン 村下社長	“なすのピリ辛”のが好きですね。
ばわふる	おいしいよ！★みっつー！
キョウちゃん	色々な味が楽しくてよいです^^
ケイスケくん	梅とささみ。さっぱりしておいしかった^^
マックス	やったー！やったー！星みっつー！



社長のちよつと長ぐつニム

『東京オリンピックとメキシコオリンピック』

オリンピックの思い出です。オリンピックの最初の記憶といえば、一九六四年(昭和三十九年)の東京オリンピックです。東洋の魔女と呼ばれた女子バレーボールが活躍し、重量挙げの三宅義信が金メダルを取り、柔道がオランダのアントン・ヘーシンクに敗れた大会です。

女子体操はチャブラフスカの時代でした。男子体操は日本が強かったのですが、レスリングも強くて五個も金メダルを獲っていたんですね。そういえばレスリングの人気マンガがあったなあ。川崎のぼるの『アニマル1(ワン)』。川崎のぼるさんは柔道マンガの『いなかっぺ大将』もそうですが、貧しいけれど明るく飾り気のない性格の主人公を描くのが得意で、当時は大人気でした。シヨランダ(米)という水泳選手がいて四個も金メダルを獲ったのですが、毎日練習するプールがあり水泳を教えるクラブがあるなんて、アメリカはとてつもなく豊かなんだと思つたことを今でもおぼえています。



しかし、なんといっても忘れたいのはマラソンのアベベです。前回のローマでは裸足で走つて金メダル。東京ではクツを履いていました。ピエからやつてきた哲人のような風貌のランナーは、この人が世界中から愛され尊敬されていることが子ども達にも分かつたもので

す。四一才の死は早すぎました。



東京の次が一九六八年のメキシコです。わたしは10才でしたが『太陽のオリンピヤ』という記録映画を、小学校の授業で見に行きました。映画で忘れられないのが、走り幅跳びです。何度も何度も審判員が計り直す光景。ビーモンが驚異的な新記録で跳んだのです。記録は25年も破られなかつたそうです。走り高跳びで背面跳びが初めて行われたのもこの大会。チャブラフスカはメキシコでも金メダルを獲っていたんですね、意外です。バレーボールは男女ともに銀メダルでした。そしてサッカーが銅メダルを獲りました。釜本邦茂のゴールを何度もニュースで見ました。このあと、サッカー漫画『赤き血のイレブン』が大人気となりました。マラソンは優勝がマモ・ウオルデ。なんと懐かしい名前。君原健二の銀メダルも忘れられませんが、円谷幸吉の自殺を伝えるニュースを見たこともよく憶えています。

陸上競技の表彰台で黒人選手2人が黒い手袋をはめて拳を突き上げている光景も、忘れられません。アメリカの人種差別に抗議する意思を示したのですが、即日IOC(国際オリンピック委員会)から追放されています。同じ表彰台に立っていた銀メダルのノーマン(白人)は、彼らに賛同したため、その後苦難の人生を歩んだとのこと。そのノーマンの葬儀では、永久追放されているミスとカールロスが付添人をつとめたのだそうです。そんなこと何にも知りませんでした。おそらくその可能性は無いのでしょうか、わたしは名誉回復がなされてもいいと思います。



さのばわふる日記



オリンピックの応援で毎夜、疲れている私。時差がある開催地だと困りますね。寝不足です。

柔道の時には、一緒に押え込みをするし、投げられそうな時は、一緒に踏ん張る。かなり、力が入っている私。

水泳のときは、なぜか息を止めているので苦しくなり、深呼吸。体操では、着地をしっかりとするために足に力を入れている。

なぜか、手を合わせお祈りポーズで観戦したり。我が子だったら、絶対に見ていられないなと思うつ応援している。

テニスにしても、かなりの暑さの中のプレー。

浦河の暑さでさえ、汗をかきながら応援していたのに、向こうはどれだけ暑かったか想像も出来ません。

それにしても日本選手団、よく頑張りました。私も選手と一緒に戦つた十六日間でした。(笑)感動をありがとう。

このニュースが届く頃には、オリンピックも終わり、次の東京に向けて始動するのだろうか。私には想像もつかないプレッシャーを課せられ、

私には到底出来ない努力をして次を目指すアスリート達。素晴らしいな。ガンバレ日本！

さ、次の冬季オリンピック

では浦河の星たち(浦二中出身！スピードスケートのウイリアムソン選手と小田選手)に頑張ってもらいたい。

おばさんは、陰ながら応援しています。



発行 株式会社マルセイ
灯油・プロパンガス販売・機器修理
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業
夏季期間(4月~9月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~6:00 土曜3:00



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3500部
【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com
【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください
〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3
TEL 0146-22-5123